

第 2 2 回 緑の市民委員会

会議録

1. 日 時 平成 2 4 年 2 月 2 3 日 (木) 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 1 0

2. 場 所 4 0 1 ・ 4 0 2 会議室

3. 出席者

- (委 員) 久委員長、 下村副委員長、 日高副委員長、
磯貝委員、 稲葉委員、 大鋸委員、 倉品委員、 児玉委員、
林原委員、 藤田委員、 山田委員、 岩井委員、 北島委員
- (事務局) 森本都市整備部次長、 前川みどり景観課長、 西本みどり景観課課長補佐、
西川花のまちづくりセンター所長、 巽みどり景観課緑化推進係長、 坂東みどり景観課主任
- (傍聴者) 1 名

4. 議事内容

1 開 会

2 案 件

- (1) 花好き・自然好き市民交流サロンからの提案について
花のまちづくりセンター“ふるーらむ”スプリングイベントについて(報告)
((仮称) “ふるーらむ” イベント実行委員会から、 4 月 2 9 日のスプリングイベントに向けた取組についての報告)
- (2) 緑の保全・緑化の推進に関する事業の状況について(報告)
花のまちづくりセンターに関する事業の状況について(報告)
(みどり景観課の主な事業についての報告)
- (3) その他
(平成 2 3 年度の「花とみどりの楽校」についての報告)
(「みどりのカーテンひろめ隊&みどりのカーテンコンテスト事業」についての説明)

【久委員長】 それでは案件(1)花好き・自然好き市民交流サロンからの提案について。
「花のまちづくりセンター“ふるーらむ”スプリングイベント」について、報告願いたい。

【事務局】 それでは事務局の方から説明させていただく。
まず花好き・自然好き市民交流サロンについて。平成 1 8 年に発足して、現在までサロン会議を 3 6 回、5 年余り開催してきた。
昨年秋「ふるーらむ」のイベントをサロンの手で考えないかという話が出て、実行委員会を立ち上げた。
その中で、前回説明した「まちなか・ふるーらむ」について、昨年暮れから 8 回ほど協議をして進めている。
「まちなか・ふるーらむ」については、市民 1 人ひとりの活動を隣近所からまち全体へと発展させていくためのものとして、「生駒市緑の基本計画」の第 2 章第 6 節「花と緑であふれる庭先・窓辺・まちかど」を創り・育む」に該当すると考えている。
具体的には稲葉委員から御説明をお願いする。

【稲葉委員】 資料1「花のまちづくりセンター“ふるーらむ”スプリングイベント(案)」にそって、現在までの中間報告をさせていただく。

【資料1 朗読】

カラーのチラシで「みどりの月間」とあるものは、実際にはカラーではないが、自治会に回覧していただく予定。「花・緑まちづくりフェスタ in ふるーらむ」とあるものは、ぴっくり通りで配布する。

【事務局】 資料の訂正を補足する。資料1の1枚目、最下段の「花のまちづくりセンターふるーらむは4月30日(月)と5月3日の祝日は」とあるところ、「4月30日(月)と5月3日～5日の祝日は」と訂正する。

【久委員長】 何か御質問・御意見等はあるか。
実行委員会から何かあるか。

【磯貝委員】 看板を用意したので見ていただきたい。

【稲葉委員】 「まちなか・ふるーらむ」で参加していただく方には、大きさなどは希望を伺って、この看板を立てていただくことを決定した。

【磯貝委員】 現在製作中だ。表示内容は、参加する会の名前など。小型の方は個人宅用で、支柱で立てるか吊れるようにするなど、色々なパターンを考えている。この製作には結構時間がかかっているの、間に合わない時は委員の皆さんでお願いしたい。

【山田委員】 フェスタは従来より開催されているが、市民へもっと周知するために実行団体が前面に出て、提案があったことのひとつの動きだろうと思う。
この看板は、大体何ヶ所くらい掲示されると、事務局は考えているのか。

【事務局】 40ヶ所ほど、手を上げていただいている。

【山田委員】 期間中だけの掲示か。期間を過ぎても継続するのか。

【事務局】 こちらの看板掲示は、期間中4月15日から5月6日を想定している。ただし、それ以降も掲示してもよいという参加者には、別途用意させていただこうと思っている。

【久委員長】 どこで掲示しているのかなどの一覧表はあるのか。

【稲葉委員】 現在、ふるーらむでマップを作成中だが、広範囲にわたるため、表示の方法など検討中だ。

【磯貝委員】 これが1番難しい。

【久委員長】 現在、大和郡山市で「大和な雛まつり」といって、50ヶ所近く色々なところで雛人形を見せられている。あのように出来たら良いと思う。

【大鋸委員】 盆梅展と同時期に開催していて綺麗だ。
ただ、あちらは商店街と限られている。

- 【稲葉委員】 生駒市の北から南までとなると、本当にすごい範囲になる。
- 【大鋸委員】 山田委員から質問があった件だが、例えば個人宅のオープンガーデンとして開催する人は、自分がいる時間だけ開催するという期間設定も可能なので、必ずしもこの期間全体に渡ってオープンガーデンをしているとは限らない、ということを含んでおいていただきたい。
- 【稲葉委員】 だから、山田委員のチューリップ畑なんかでも掲示していただきたいと思っている。
- 【山田委員】 あの畑は、馬見丘陵公園で去年あった馬見フラワーフェスタに関連して、県の掲示をしたのだが……。
了解した。要望が事務局からあれば、いかようにも掲示させていただく。
- 【下村副委員長】 同時に、生駒市がやっているコンテストの紹介をしてはどうか。A 1サイズ 1、2枚のパネルで今までの受賞の紹介などをすると、今後の応募者が多くなると思う。
- 【事務局】 昨年の受賞のパネルがある。
- 【下村副委員長】 そういうものを、あちこちに置いて活用したらどうか。
啓発的なブースがあれば、例えばパワーポイントを使ってふるーらむや市の事業説明を、ナレーションは入らないかもしれないが映像だけでも写すなど、いろいろと紹介すれば、相乗作用でもっと広がるのではないかという気がする。
- 【山田委員】 公園等40ヶ所ということだが、コミュニティパーク事業を行った6ヶ所は入っているのか。出来ればこの6ヶ所は、重点的に入れたほうがよい。
- 【事務局】 自治会もある。
- 【山田委員】 6ヶ所は入っているか。
- 【事務局】 全部ではない。
- 【山田委員】 入れれたほうが広がるのではないかと思う。
- 【久委員長】 「花とみどりの景観コンテスト」で、事前審査の時季的に、いつも薔薇を見せていただけないところがあるが、そこは入っているのか。
- 【事務局】 説明会には来ていなかった。
- 【稲葉委員】 参加すると言ってこられたか。
- 【事務局】 市民サロンには来ていただいている。
- 【稲葉委員】 薔薇は時季的に早い。
しかし、「まちなか・ふるーらむ」では、生駒市にはこんな綺麗な花の木がありますよ、という花木の紹介もしていきたいと考えている。花木は期間がズレるかもしれないが、合わせて紹介していきたいので、近くに素敵な花木があれば、紹介、推薦していただきたい。

- 【林原委員】 市民参加型ということで、例えばアンケートを実施したり、意見を募る投書箱などを設置すれば、より密接に次回への参考になるのではないかと思います。
- 【久委員長】 また実行委員会のほうで検討いただくように。
- 【稲葉委員】 開かれる前ではなく、会期中のアンケートか。
- 【林原委員】 そうだ。
- 【大鋸委員】 一般市民がどう感じたかをアンケートするのか。
- 【林原委員】 「まちなか・ふるーらむ」に来られて、どう感じたのかをアンケートする。
- 【岩井委員】 40ヶ所は、40団体か。
- 【大鋸委員】 個人も含めてだ。
- 【下村副委員長】 2つ質問だが、1つは「緑の相談」はふるーらむの職員が受けるのか。実行委員の皆さんが受けるのか。
- 【稲葉委員】 緑の相談員である米田先生と井上先生が受ける。
- 【下村副委員長】 皆さんも受けたらいいのではないかと思います。
2つ目は、皆さんがせっかく実行委員として活動していただいているのだから、もし会員募集や活動を広げる考えがあるのなら、その母体である団体やフィールド活動などをリストなどにして紹介していただくと、1人で活動している方々の参加するきっかけ作りにも繋がると思われる。
募集しても良いという団体は、活動団体紹介などを掲示して、参加募集、連絡先はふるーらむ経由で行うなど、形態はいろいろあるが、そういうことをしてもらえると広がると思うので、可能であれば考えていただきたい。
- 【久委員長】 グループの仲間の募集だ。単にお客様として見に行くだけではなくて、自分の身近な所で、例えば花育てのグループがあれば、近所だったら入ってみようという人がいるかもしれない。そういうところにも呼びかけたらどうかということ。
ひとつアイデアだが、会期が終わってから反省会などを行うとき、「まちなか・ふるーらむ」に関わっていただいた人たちにも声をかけて交流会を兼ねた反省会が出来たら、また繋がりが増えると思う。
せんとくんは来るだけか。去年に大宮通りでせんとくんに来てもらい一緒に花植えするイベントをした。そうすると親子で150人位集まった。「せんとくんと花植え出来るよ」という呼びかけを試みたらどうか。
- 【磯貝委員】 せんとくんは非常に人気者だから、皆さん目の色が変わる。どういう風に上手く使ってアピールするかを、もう少し考えないといけない。
- 【稲葉委員】 去年は写真を一緒に撮ったぐらい。
- 【林原委員】 たけまるくんのヌイグルミはあるのか。一緒に出てもらえたら。
- 【久委員長】 たけまるくん動きにくそうだが。

【山田委員】 「まちなか・ふるーらむ」のチラシは各自治会に回覧すると思うが、白黒で印刷するのか。

【稲葉委員】 白黒だ。

【山田委員】 カラーは難しいか。

【磯貝委員】 4000部必要だ。

【事務局】 市民活動推進課で確認したところ、124自治会に全部回覧するためには4000部必要と指示されている。

【稲葉委員】 紙はカラーだ。

【大鋸委員】 なるべく目立つようにと助言いただいていると思う。

【山田委員】 アピール度が違う。カラー紙を使うかどうかでも違う。

【久委員長】 イベントをいろいろ手伝っているが、チラシを見て来たという人は案外少ない。あまり効果はないと思う。それよりも友達に手渡すなどのほうが効果的だ。花屋から客に手渡してもらおう、というのはどうか。

【磯貝委員】 それは良い。今度花屋に行ったとき、参加協力をお願いする。

【久委員長】 市役所から配ると「なんでうちには来ないのか」という話が出てくるので、実行委員会で行っていただいたほうがいい。

あといかがか。よろしいか。

実行委員会でどんどん詰めてもらい、良いものにしていただけたらと思う。

それでは次の案件で、年度末ということもあり、花と緑の事業の全体像について議論してもらいたいと思っている。

2番目の「緑の保全・緑化の推進に関する事業の状況について」と「花のまちづくりセンターに関する事業の状況について」ということで、まず事務局から報告してもらおう。

【事務局】 【資料2 説明】

【久委員長】 1つ1つ重要な問題だが、「みどりの基本計画」の進み具合のチェックということで、全体的な話もしたい。

まず、4月に募集がある「ボランティア養成講座 花とみどりの楽校」について。

昨年、一昨年からの課題で、連続して落選した人に対する救済措置について、何かアイデアがあるか。

【岩井委員】 私は第1回目の修了生だが、私の知人が、私が1期生で申し込んだ時以来ずっと申し込んでいて、今度4回目となる。つまり、3回とも落選している。

この方は非常に緑に洞察があつて、近隣の相談相手にもなっているリーダー格の人であり、是非楽校に入りたいと希望されている。年齢は74歳で、今年も申し込むということだ。歳は召しておられるけれど、ボランティアとして頑張っただけのではないかと思っている。

このような人に、優遇策、特例措置を講じられないか。

3回落選したからではなく、1回応募して落選した人も優先的にピックアップして、考慮の対象にしてもらえたらと思う。

【児玉委員】 救済措置を講ずることの不都合は何かあるのか。それだけ問題になっていて、講じない理由はあるのか。

【事務局】 人気がある講座のため今まで抽選を続けてきたという経緯があり、その中で優遇をすれば、次回の募集の際、不公平が生じるのではないかと懸念される。

【児玉委員】 何回も申し込むということはそれだけ熱意があるわけだから、救済措置をとっては。

【久委員長】 その辺りを今、意見交換している。

去年で今年ということになってくると、2年待ち3年待ちの方が出てくる危険性があるので、その辺りを慎重にしないといけない。

【北島委員】 私も落ちた1人だが、これだけ希望者があるのに、1年目の花・緑各講座20名の受講が2年目3年目は15名になったのか。20名に戻すことはないのか。

【事務局】 当初、講師との打合せなどで、15名としてのまとまりの方が講座として動きやすく効率が良いとのことだったので、花・緑各講座15名ずつと決めた。しかし、応募をたくさんいただいたため、各講座5名ずつを増やして1回目は行った。

だが、1回目を行って、やはり15名のほうが動きやすいということになり、2回目以降は15名で行っている。

【久委員長】 実習のやり易さということ。無理にお願いして20名に増やしたが、やはり20名を1人では目が届かない。

【事務局】 講義だけを聞いてもらうのであれば、例えば200人でも出来る。

グループごとに現場に行って実習を行うなど、スタッフの人数から考えても15名が一番良い。

【北島委員】 やはり狭き門だ。

【岩井委員】 「ボランティア養成講座」と書いてあるが、これが応募者に認識・理解されているかどうかも問題だ。

今度の募集をする際、「ボランティア養成講座」であることを鮮明に打ち出すことを提案する。

ニュアンス的に「ボランティア養成講座」とは特に理解せず受講し修了している人が、案外多いのではないかと思われる。

【大鋸委員】 1期からも、やっぱりあった。我々は受けたものは、当然何らかの形で返そうという感覚だが、理解していない人が何人かいた。

【岩井委員】 案外そういう人がいる。それを最初から見極めるということは難しいが、一例として、応募はハガキのみにし、応募動機を書いてもらう。

わずかなハガキのスペースの中に、住所・氏名・年齢・職業、あとボランティア養成講座に応募する動機を書いてもらうようにしてはどうか。

その様な募集形態も参考にしようと思う。

- 【大鋸委員】 頭から「ボランティア養成講座」というのを打ち出すと、ボランティアをする意識のない人は応募してこない。
事務局も「ボランティア養成講座」であることをオリエンテーションなどで説明しているが、そのことが抜けている人も多かったような気がする。
ただ自分の勉強を安い金額で出来る、というだけで応募している人が多いから、結局ボランティアに繋がらない。
打ち出し方として「ボランティア」という事を前面に出したほうが、受講生にも「修了したらボランティアをする」という自然な流れが出来てくるのではないかと。
- 【児玉委員】 私は1期生だが、経験からいうと、楽校を修了して「ボランティアして下さい」ということは分かるが、実際問題としてどこに行けばいいのかわからない。
「ボランティア養成講座」を前面に打ち出す形にするのであれば、市内のみどりのボランティアグループの情報が分かり、その繋ぎをする場を整備する必要があるのではないかとと思う。
ただ、ポッと卒業しただけでは無理だと思う。
- 【久委員長】 色々な講座でその話をよく聞くが、私は大学の就職活動と同じではないかと言っている。
例えば、ボランティアグループが会員募集をすることがあれば、大学の就職課の様な場がふるーらむだとして、そこに登録しておく。グループの情報をファイルなどにしておき、ボランティアを始めたい人がそれを自由に見てもらって自分で連絡してもらおう。
事務局が斡旋するとなると事務局も大変になるので、例えば、大学の就職活動の少し簡便な仕組みがあるのではないかと、という様な気がする。
- 【事務局】 修了式の日には花・緑のボランティア団体をお呼びし、その活動内容などを説明していただいているが、一方的な説明で、就職活動の企業側の説明だけで終わっており、「参加するには」など、その先がされていないのかなという感じがした。その辺りをもう少し明確にしたい。
修了生の方々のアンケートでも、やる気はあるがどうすればいいのかわからず、手をこまねいて1年ないし半年が経過した、という回答があったので、もう少し整理していきたい。
今回、救済措置に関して、落選されている応募者の状況を調べたところ、3回落選している人はいない。2回落選は、連続及び1年空いてというような場合も含めて4名。1回落選が42名という状況だった。
今回、事務局で検討しているのは、救済措置をとるのは2回落選の4名。この方々に連絡し受講の意思を確認して、応募いただいたら優先的に受講していただく。あと、残った募集人数の中で抽選をする、と考えている。
- 【日高副委員長】 1回落選の人が3年間で42名いるということなら、その人達に、2回落選したら救済措置があると言わなくてもいいが、もう1回チャレンジしてみてください、という声かけもいるかもしれない。
先ほども思ったが、ボランティア精神の旺盛な人が全部落選したのか。そんな事はないと思う。
何故かという、修了式に毎回参加しているが、皆さんが本当に意欲的で「明日からでも色々なことをするぞ」という熱い想いがひしひしと伝わってくる。皆さん素晴らしいなといつも思っている。
しかし、その意欲が活動に繋がらず、そういう想いの人がどこへ行ったのだろう、あの想いはどこへ消えていくんだろうと思っていた。
今、久委員長が言われたように、そこに資料が置いてあり自分で探して連絡するという

仕組みは素晴らしいと思う。

みどりのボランティアだけでなく、色々なボランティアをしたいという人はたくさんいる。例えば東北に行ってボランティアしたいとか。

しかし、どうやって行けばいいのか分からない、というのは皆さんが思っている。

やはり、ボランティアをしたい人がボランティアしやすい仕組みを作るのが重要。

先ほどからの意見で「ボランティア養成講座」であると大きく銘打って、大鋸委員が言われたように「もらったものは返す。皆さんにお返しする」という想いで、頑張ってもらえるような形を作っていないと勿体ないと思っている。

せっかく「花とみどりの楽校」に応募し、そして半年間学んで、修了式であんなに楽しそうにしている想いを何とか形にするような仕組みを、みどりの基金を活用して作れないかなと思う。そうでないと本当に勿体ない。皆さんは意欲を持っているのだから。

修了生が何期生も一緒になってグループを作っている。毎回、市民サロンの前に集まっている人も多い。

【大鋸委員】 岩井委員がリーダーだ。

【日高副委員長】 そのように、皆さんの想いが実を結んで花開いて形になっていくような仕組みを考えられないかなと。

「まちなか・ふるーらむ」もそうだし、色々なイベント事もそうだ。

何かの折に参加してもらえる、きっかけが大事だと思う。せっかく「花とみどりの楽校」できっかけを手渡し、気持ちに火が点いたのだから、その気持ちを形として具体的に動ける仕組みを皆さんに考えてもらえたらと思う。

【下村副委員長】 修了した人は、是非積極的に花や緑を通じたまちづくりをしてもらいたい、というのが楽校の趣旨だと思う。

皆さんの指摘のとおり、本当は100%ボランティアで動いてもらえたらと思うが、なかなかそうっていないのは歯がゆいところだ。

先ほど久委員長が就職活動の出口の話をしたので、入口の話をしたい。

「ボランティア養成講座」という趣旨を大々的という話があったが、実は私が受け持つ大学の学科名が緑地環境科学とあって、みどりや環境を志望する学生が入ってくるが、何をしたいのかよく分からない学生達も入ってくる。

色々学んでいく中で、緑地に対する計画やデザインをしたいという学生が私の研究室などの関係にくるのだが、最初に入ってくる時は何も考えていない、または「ちょっと環境だから来た」という学生もいる。

だが、学んでいく中で、興味を持って変化する学生もいる。1、2年生のとき遊びまわっていても、3、4年生から変化して、大活躍している人もいる。

要は、入口をどこまで絞るかだ。

最初から意識の高い人に来てもらうのも一つだが、少し緩やかだが、花や緑、近所付き合いやまちづくりに興味がある人も、私は来てもらってもいいのではないかなと思う。

その人達を、いかにボランティア活動に引っ張って行くか。

中身を出来るだけ充実し、そういう意識を段々と積み上げていって、最後近くに久委員長から「ボランティアとは」「まちづくりとは」という話をさせていただくことで、熱い塊を持ってもらう。先ほどの話のように、その熱が最後まで残っていると思う。

そちらもあって、いいのではないかなと思う。

騙す訳ではないが、花や緑だと思って応募したら、蓋を開けたらボランティアやまちづくりだった、と。理想的なことを言っているのかもしれないが、そういう人も来ていただきたいと思っている。

募集の段階で絞り込んだほうがいいのか、なかなか難しいところもあり、それは皆さんの意見をもらい決めていくべき内容だと思うが、そういう様な考えもある。

- 【久委員長】 私の講義で来年度から、ボランティア活動の探し方、「こうやったら見つかりますよ、待っていても見つかりませんよ」と言わせてもらう。
先ほど提案のあった「志望動機」だが、私の研究室では学生を選ぶとき志望動機を書かせるが、みんな良い事を書くので選べない。ましてや面接をしたら、みなPRしてくるので、ますます選べなくなる。
だから、あまり細かな作業をすればするほど選べなくなるので、クジを引くほうが楽かなあ、という感じもする。
あと、今回救済措置をとるとすれば、当然2回落選の4名が対象になると思うが、少し不安なのは、1回落選の42名が今年全員応募したとすると、来年2回落選した人が多数名出てくることになり、次回は新規の人が応募できないというような状況にもなりかねない。
- 【下村副委員長】 抽選方法として、30名のうち花の講座5名緑の講座5名の10人は、2回落選した人はまた抽選する。そうすると確立は高くなるのでは。2回のチャンスが出来る。
当たる確立が高くなることも救済措置の一つかと思う。
- 【久委員長】 来年度に、落選した人がどれだけ出たか、また報告してもらおう。
それでは、今年は2回落選した4名に救済措置を行う、ということによろしいか。
- 【岩井委員】 この4名が応募して、初めて考慮の対象になるということか。
- 【久委員長】 そうだ。
- 【日高副委員長】 3度目の正直があることを伝えないといけない。
- 【下村副委員長】 2回落選した人に救済措置を行うということは、議事録が残るので公表となる。
- 【事務局】 今、下村副委員長から指摘いただいたように、この措置は公表になるので、広報などで募集する際に、その旨を掲載しなければいけないのか判断に迷っている。
- 【久委員長】 そこまでは必要ないのでは。
日高副委員長が言われたように、2回落選した人に関しては、もし応募すれば優先的に受講できると、一言ぐらいはかけてもいいかと思う。
- 【事務局】 募集のときに、15名、15名の募集をする、なお救済措置もある、ということに掲載したほうがいいのか。または、掲載しなければならないのか。
- 【久委員長】 先ほど言ったように、多数の2回落選者が出てくるかも分からないので、来年度どうなるのか分からない。今回は様子伺いで。
- 【日高副委員長】 1回落選の42名中、去年3期目での落選者が何人いるのかだ。
第1期で落選して、もう諦めた人がいるのかもかもしれない。
- 【磯貝委員】 失礼な言い方だが、高齢の方が受講して、修了してボランティアとして活躍を期待されるときに、さらに歳をとられる。もちろん体力には個人差があるが、非常に難しいのではないか。意欲の問題などでも。
年齢制限をしたら問題となるか。

- 【久委員長】 今、就職でも年齢制限は駄目だ。人権問題になる。
- 【林原委員】 入学した時と修了生の人数が違う。統計上、落伍する人は数%いるといわれている。救済措置の一案として、修了生が15名になるよう、入学したときに数%の落伍する人数を見越して、特別枠として連続落選の人を入学させては。例えば、落伍する人数を1名とすれば、連続落選の人を1名入学させて受講生を16名とし、修了する時に15名となる、など。受講生を固定するか、修了生を15名確保するか、どちらを目指すのか、だと思う。ただ、そうするとボランティアとして機能するか、という論議はある。
- 【久委員長】 それは定員を変えてしまうことになってしまう。
- 【林原委員】 定員は変えられないのか。
- 【久委員長】 それを繰り返してしまうと、最初から16名の募集にしておけば、という話になってくる。また、途中で脱落する人数の見込みも難しいと思う。もし脱落しなかったらどうなるか、ということもある。
- 【林原委員】 どこでも「定員プラスアルファ」があるので、提案した。
- 【事務局】 実は、第3期の入学式を終えてから「私の思っていた講座ではなかった」ということで、退校の連絡をしてきた人がいた。まだ入学式後で本格的に講座が始まっていなかったことから、日高副委員長に相談してもう一度抽選し、次点ということで、急遽1名を入学させた。
- 【久委員長】 それがギリギリのラインだと思う。
- 【日高副委員長】 今回は、2回落選の4名は優先ということで声をかける。嫌と言われたら仕方がないが。
- 【久委員長】 来年度は、状況を報告してもらって、また考えさせてもらう。
- あと、みどりの基金がなかなか苦戦している。資料を見てもらうと分かる通り、備考欄にほとんどの事業が「みどりの基金活用」となっているので、基金がなくなると10年後には事業がなくなってしまう。名案、というのはなかなか難しいが、出来るだけ周りに声をかけてもらって基金に入れてもらえるよう、働きかけをお願いしたいと思う。市役所に入るので、減税措置はあると思う。
- 【磯貝委員】 募金箱に入れるのと申し込むのと、基金へ入れる方法が2種類ある。
- 【事務局】 5千円以上いただいた場合は、寄附として書面でのお礼状などを出させてもらう。ただ、募金箱にお金を入れていただいた場合は出せない。
- 【岩井委員】 みどりの基金に年間目標はあるのか。例えば、年間百万円は確保して基金を集めたい、という目標を市民に伝わってくれば、意識も高まる。ただ、事業費がこれだけかかった、結果としてこの数字だ、だけだと集まりにくいのではないか。

- 【久委員長】 簡単に言えば、支出総額の分を基金に積立てないと駄目ということ。年間どれだけ寄附などが集まればよいのか。
- 【事務局】 当初は百万円ということだったが、事業がかなり膨らんできている。
「花と緑のわがまちづくり助成制度」では6百万円を計上しており、実績としては助成対象の団体グループもかなり増えている。
そのような経緯の中で、この金額を集めるのは難しいと思う。
- 【久委員長】 助成を受けている団体は、この助成は基金から出ているということを分かっているのか。税金からだ誤解しているのではないか。
今回は助成するが、お金に余裕があれば逆に基金に入れて下さい、ということを念押しした方がいいかもしれない。
- 【機員委員】 これは、助成を受ける側の活動の中で、このお金は基金から出ているという意識を持ってもらうことが大事だ。これがないと絶対集まらない。
- 【事務局】 「わがまちづくり助成」は現在は年2回の花植えで8万円が限度額。過去に、制度が始まった当初の助成額から80%の減額でお願いすると、申請している団体などに連絡して限度額を下げたという経緯もある。
- 【久委員長】 この助成が、ふるーらむに申し込んだらお金を貰える、という話になっていないか、ということだ。基金という浄財を使って助成していることをPRしていかないと、出るばかりで入って来ないのではないか、ということだ。
これはちょっと失礼な言い方だが、寄附を集めるのに一番効果的なのは、お亡くなりになった方のご遺志だ。
息子や娘につかう位だったら皆さんに使っていただきましょう、というご遺志で、案外2、3百万の単位で持ってこられる。
- 【事務局】 今年度の寄附は68万円と計上している。その中で、50万円ほどを、道路周辺の街路樹などへ有効に使っていただきたい、という個人からいただいた。
寄附はするが名前は伏せておいてほしい、ということだった。
- 【林原委員】 2つ意見がある。
1つは、基金がどのようなところに使われ、どのような役に立っているのか、という有用性を、市民へアピールすることが重要ではないか。理解されていないのでは。その辺りをもっと強化していく必要がある。
もう1つは、篤志家への対策を具体的に見直す必要があるのではないか。
例えば、ふるさと納税などでは一定の金額以上の寄附だと、高山のおかきなど記念品が貰える。
おかしい言い方だが、それと比較すると、みどりの基金には特典がない。全くの無償の愛という感じだ。
だから、ふるさと納税に類するような扱いをしてみてもどうか。記念品などを感謝の印として贈るとか、例えば市長からの感謝状だとか、施設の優待利用ができるとか。
寄附者に何か特典を示さないと機能しないのではないかと思う。ただ単に、寄付をお願いしますというだけでは集まらないと思う。
- 【久委員長】 それは逆ではないか。何かを貰いたいがために寄附しているわけではないと思う。特典がないから寄附しない、というものでもないと思うが。

【林原委員】 あまりにも少ないので憂慮している。何か抜本的な対策があるのではないか。
ただ単に、故人の遺志や学校、企業での募金などを当てにするだけでは手ぬるいかと思
っている。

【久委員長】 具体的には、4月のふるーらむのイベントや「まちかど・ふるーらむ」などで、「この
ような役にたっていますよ」と知らせるパネルを作るなどして、PRしてもらえれば。

次の案件に行く。

(3) その他で「花とみどりの楽校の報告」を事務局から報告してもらう。

【事務局】 【花とみどりの楽校(報告) 説明】

【久委員長】 「花とみどりの楽校」の全般をコーディネートしておられる下村副委員長からお話をい
ただければ。

【下村副委員長】 講座が進行していくにつれ、受講生の皆さんがだんだん仲良くなっていく風景を見る事
によって、効果が上がってきたのではないかと、講座の中ではそう思う。

その受講生が今度は修了生となって、いかに色々な地域に戻って身近な花やみどりを育
てる活動をしてもらえるかということ、市の職員とも、もっと色々してもらいたいと
いう話をずっとしている。

先ほど、春のふるーらむフェスタの案件でも、ボランティアの紹介リストの作成という
提案をしたように、そういうきっかけ作りをいかにしていくかが大事だと思う。

また、これは年によって受講生たちの様子が違う時があるが、例えば名簿作りや何かの
集まりをしたいときなどに、リードしてもらえる人がいる年は、割と集まってもらえたり
盛り上げてもらえるような気がするので、そういう人を講座の中で声かけし、リード役
になってもらえるような形のフォローアップも必要だと思う。

アンケートの結果としては、良い評価もあれば、ちょっと考えなければならぬところ
もあるので、修了生の人たち、また講師の方々の意見を聞きながら修正、大修正をして、
今年も日程などは決まっていなかったが、するという事は決まっているので、できるだけ効果を
発揮していきたいと思う。

修了生の人たちにも、受付やバスツアーのお手伝いなどから、縦のつながり、学年のつ
ながりを広げていってもらって、1人でも多く活動してもらえる人を養成する講座であり
たいと思っているので、またご協力をお願いする。

【久委員長】 今回は先ほど意見のあった救済措置を行うなど新たな試みがあるが、例年どおり頑張っ
てもらえればと思う。

もう1つの案件として、「みどりのカーテンひろめ隊&みどりのカーテンコンテスト事
業」について、来年度も「みどりのカーテンコンテスト」の審査委員の依頼がある。

事務局から説明をお願いする。

【事務局】 【みどりのカーテンひろめ隊&みどりのカーテンコンテスト事業 説明】

【久委員長】 去年はもう少し遅い呼びかけだったが、今回は当初から一緒に考えさせてもらえる感じ
だ。

審査委員として2名ということだが、どうか。

【磯貝委員】 昨年行かれてどうだったか。

- 【大鋸委員】 面白かった。
- 【稲葉委員】 現場ではなく写真だけの審査なので、難しかった。
- 【大鋸委員】 難しさもあったが、第1回目であれだけ応募があったという驚きもあった。
やはり、環境に皆さんの関心がかなり集まっていることが数字にでているのだとよく分かった。
- 【藤田委員】 引き続き、稲葉委員と大鋸委員に受けてもらえれば。
- 【委員一同】 異議なし。
- 【久委員長】 それでは、昨年どおりということで報告しておいてもらう。
- 事務局で用意した案件は以上だが、委員の皆さんの方からPRやイベント告知などあるか。
- ないようなら、今回の案件は以上となる。
次回の日程について、一旦事務局へお返しする。
- 【事務局】 次回の日程については、平成24年4月下旬ないし、5月上旬を予定している。
日程が決まったら連絡させていただくので、よろしく願います。
- 【久委員長】 これをもって、「生駒市緑の市民委員会」第22回の会議を終了する。